

十年一昔 (その二十三)

十号用水路日大堰界限

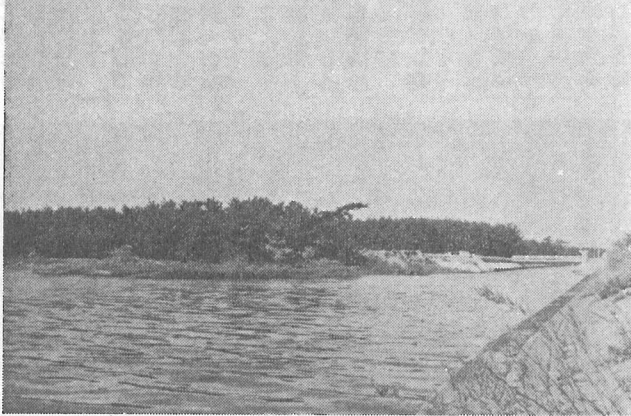
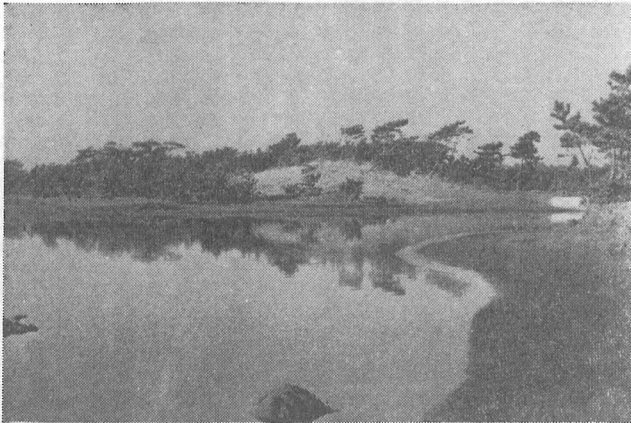
給食センター小沢所長寄稿

横芝町の海岸線は極めて短かく僅か一軒半程しかありません。しかし、栗山川の流れには変化が多く割合に景観は勝れています。流れといえば昔の栗山川は今とは随分異なっていました。本流は漁港の付近から右に曲り南川岸を通って蓮沼村方面に流れていたの

はり南川岸に流れていたのです。二本の支流は何れも末端は栗山川本流に合流して蓮沼方面に流れて海に注いでいたのです。大正六年の八月に大雨が降り栗山川河口が氾濫して屋形附近一帯は洪水の危機に瀕しましたので地元の人々は栗山川の水が直接海に流入するように水口を切りましたが自然に出来ている大河の流れを人間の力で限られた期限に変えようというのですから大変な仕事だったと思います。それでも自然を征服して漁港附近から蓮沼方面に至る流れは逆に蓮沼田圃の排水や栗山川支流

が迂回して流れた水等を集めて新らしい栗山河口に注ぎ込む様に変えてしまったのです。こうした流れに伴って周辺のたすまいも随分変わりましたがその中心は十号用水路に架せられた日大堰下の界限だと思えます。大正の中頃から第二次大戦の初期の頃まではこの辺り一帯が習志野騎兵連隊の演習地になっていて毎年夏になると南川岸等の民家に宿舎をとった兵隊さん達が水馬訓練を行なったものです。昭和十年頃には三笠宮も見習士官の資格で来訪しておられるということとす。またこの辺りは海水と淡水が交流するため黒貝というあざりとしじみの合の子の様な貝が沢山採れましたので終戦後の食糧事情のきびしかった頃の窮乏緩和に大いに役立ったということとす。

日大堰のある場所にはその前から水門があつてその周辺は雑魚や蟹がよく捕れましたが又水門下一帯は水深も一米位でしたから夏休みになると子供さん方には格好のカッパ天国となつたものです。其後養鰻場の開発、日大学生寮の誘致、更に蓮沼湛水防除横芝堰の完成等に伴って十号用水路の末端も、また入江の様に水溜りを造ったりしていた松林の堤も奇麗に護岸され面目は更に一新されました。いま蓮沼湛水防除排水路(元栗山川本流)の岸に立って十号用水路に股がる日大堰方面に向い立ち並ぶ松林を眺めています。



と「今切の松は今切におけば育っているが、他に移植をしては殆んど根付かない」という話をしてくれた或古老のその声の耳の奥に甦って来たのは何故でしょうか。◎写真上は町村合併直後のもので右手に白く見えるのが一枚板の水門です。この水門にまたがって雑魚を釣ったものです。また此の上からダイビングして水遊びもしました。◎写真下は十一月中旬のもの一枚板の水門は立派に改修され日大堰となり、その向うには立派な橋さえ出来ています。上の写真で干潟の様になっていた辺りは完全に護岸が施されていますが松林の上には突出している枝振りには未だ昔の姿をそのまま残しているのを見えます。◎写真は共に元栗山川本流から十号用水路を望んだものです。

地震に対する心得

心得

大地震が起つた場合あなたはどうしたらよいのでしょうか。大地震の場合でも「一分たつたらまず安心」といわれています。それはいつも必ずそうとはいえないでしょうがたいがいこのときに通ずるようです。一分たつて気が落ちついたら、そこでまず考えてみてください。一分たつて身体が安全ならば、第一に火のものと始末を

することとす。地震でいちばん恐ろしいのは、地震による直接の被害よりもその後火災による被害がきわめて大きいためです。これから冬を迎え火を使う設備や器具が多くなりますが、いつも安全なものを正しく使う習慣をつけることです。特に石油ストーブは倒れないようにして、燃えやすいものが落ちたりしないところで使うことです。そしてでき得れば消火器をそなえておくことも大切で、おぼなくとも常にバケツ一杯の水の汲み置きはしてください。隣家が火の始末に失敗することもありません。それを助けませんか延焼して大火災にもなりかねません。そのためにもバケツ一杯の水、消火器は大切です。第二にもし助けを要する家人や隣家の人があれば手をかしてあげることとす。万一建物の下敷きになつてしまった人を助けることなどは、隣近所の人々が手をかしてはじめて可能なこととす。町内会などでも地震の話を出し合つてみてください。第三に地震の様子と周囲の状況を判断して避難するかどうかを考えることとす。電話が切れ、電灯が消えることとす。夕食時ならなをさらやっかいなこととす。トランジスタラジオで情報を聞くとか、消防や警察からの指示がいきわたる方法を考えておくこととす。避難場所はふだんから心にきめておくことが大事です。